



尿検査から わかること



回答者

森中 恵美・もりなか えみ

平成 18 年 3 月産業医科大学産業保健学部卒業。

平成 31 年 1 月から地方独立行政法人くらで病院検査科に
勤務（臨床検査科科長）

尿が出にくい！血尿が出る！排尿時に痛みを感じる！頻尿！乏尿！尿の色がおかしい！

などなど、病気のサインはさまざまです。健康診断などで行っている尿検査は尿一般検査と言われるものですが、尿検査にはこのほか目的に応じてさまざまな種類の検査が行われています。

尿検査をすることで、膀胱炎等はもちろん、腎臓の病気を中心に糖尿病やがんなどが分かることもあります。今回はあまり取り上げられない『尿』についてお話しします。

●尿検査にはどんな種類があるのでしょうか？

■尿試験紙法（尿一般）

試験紙を尿につけ、10 項目程度の測定をする一般的な検査です。

潜血や蛋白、糖などに異常がないかを試験紙の色調の変化で確認します。

■尿中生化学検査

ナトリウムなどの電解質やクレアチニン、アルブミンなど尿中物質の測定を行います。

■尿沈査

尿を遠心し、顕微鏡で実際に赤血球や白血球の数をカウントします。

尿路感染や膀胱炎等を疑うときに行います。

その他細菌や悪性細胞を見つけることがあります。

■細菌検査

尿を培養して細菌を検出します。治療薬の参考となります。

■細胞診

尿を遠心し、尿中にある細胞を中心に観察します。

がん細胞などの悪性細胞を見つけることが目的の検査です。



●病院ではなかなか尿が出なくて困っています

基本的に採尿直後の尿で検査することが理想です。時間の経過した尿は尿中の成分が変化し結果に影響をおよぼす事もあります。くらで病院では、病院での採尿が難しい方には予め保存容器をお渡ししています。採尿後 2～3 時間程度であれば、涼しい場所で保管してご持参いただければ検査が可能です。

血液検査だけでなく、尿検査で分かることは意外にあります。毎日の排尿回数、色調、臭い、尿量など気になることがあれば医療機関にご相談ください。